



森ボラ 通信

第79号 2008年12月20日発行

NPO法人北海道森林ボランティア協会

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 : Fax:241-8308

E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

トピックス

◆ 先進地視察研修（ウヨロ環境トラ スト）に参加して



10月14日(火)森林ボランティアと創る石狩の豊かな里山モデル事業(主催北海道石狩支庁産業振興部林務課)の一環として先進地視察研修に参加しました。参加者は協会からは西野・荻田・和田の3氏と市山の4名を含む34名でした。研修行程は札幌から美人のガイドさん付き大型バスで苫小牧市白老町を訪ね、昼食は苫小牧での荒狗路「豚ドン」の腹ごしらえと優雅な日帰りツアーでした。

午前は苫小牧の(株)イワクラで工場見学、灯油代替燃料として脚光を浴びている木質ペレットについて報告します。木質ペレットの製造方法は材を粉碎・乾燥して圧縮形成した固形燃料ですが、接着剤は使わず圧縮のときに発生する温度(約70°C)でリグニンが溶けて接着剤の役目をしますので環境に優しい製品と云えます。その特性は

- ① 木質バイオマスを用いた再生可能なエネルギーである事と石化燃料の代わりになりうる熱源であること。
- ② 木質ペレットの原料は針葉樹を中心に森林の育成過程で生じる間伐材や林地残材とか製材工場から発生する端材、オガ屑等を破棄することなく再利用しています。木質ペレットを燃やすときに出るCO₂は樹木のときに蓄積したCO₂だけですから、環境に優しいクリーンなエネルギーすなわちカーボンニュートラルと云われる所以です。
- ③ 今、ゴミを減らすことすなわちゴミを出来るだけ資源として再利用することは環境問題に重要な課題となっています。木質ペレットへの応用は従来廃棄物として林床に放置されていた玉木、樹皮、枝条の活用やノコ屑の再利用促進に繋がって行きます。

午後は白老町のウヨロ環境トラストを訪ねました。会の中心的指導者である河野さんと浜田さんが同行され協会発足の経緯、活動状況、将来への展望等について説明を受けましたが、バスを降りて最初に3mほどの小川に遡上したサケの出迎えを受け感激しながら目的地のトラスト地に向かいました。

ウヨロ川の素晴らしい自然環境を維持・保全のため2.2haの土地を買い上げNPO法人ウヨロ環境トラスト(会員数38名)を立ち上げ、自然を残すナショナルトラスト活動を行っており、うまく行っている事



例として色々な所から注目を集めております。トラストの森で育んだカラマツの間伐材を利用して手作りの山小屋、ツリーハウス、バーベキュー等が楽しめるウヨロドームの建設を手掛け宿泊も可能なスペースとし、教育や森遊びを通して人の『豊かさ』を次世代の子供達に伝える場として活動を続けています。

もう一つの目玉はフットパス(自然歩道)の整備が上げられます。自然豊かなウヨロ川に沿った全長15kmの歩行者専用道路は自然公園やエコの森を結び、植物の群落や牧場の動物とのふれあい、サケの遡上や自然産卵が身近に観察することができます。今回はそのチャンスに恵まれ流れのゆったりしたウヨロ川でのサケの乱舞は壮観でした。ちなみに産卵場所は深さと温度の関係から小砂利が敷き詰められかつ湧水の出ている処で自然産卵が行われるとのことでした。

そのほか、萩の里自然公園のエコの森とブウベツ川の石山森の状況を見学しましたが、荒れた森を再生しようと一般のボランティアを募りカラマツの枝打ちや除間伐などの森の手入れ作業が行われているとのことでした。また植樹エリアではカミネツコンと実生の育成差がはっきり表れ、実生からの自然更新の方が食害などに合う頻度が低く立派に成長しており自然の強さに感心させられました。

今回の外部研修で自分達の森に対する思いを(この森をどのような姿にして後世に残すか)100%発揮させる為にはこのようなトラスト方式の選択も一考と感じたと思います。有意義な一日を過ごすことが出来ました、石狩支庁の八巻さん、長屋さんのご苦勞のお陰と感謝申し上げます。(記、市山)

ウヨロ環境トラストウェブサイト NPO 法人ウヨロ環境トラスト 〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町1-11-7
TEL 0144-85-2852, FAX 0144-85-2856 <http://www.shiraoi.org/trust> 及び <http://www.econakoto.net/uyoro/>

◆ 投稿 「ケヤマハンノキ」の秘密

ケヤマハンノキは我々年寄り向きの樹と揶揄されるほど成長が早く、植付け後2～3年で背丈を超えるほどで、植樹した効果が短期間で実感できる数少ない樹である。なぜだろうかと疑問を持ちながら漫然と過していたが、ある日突然解決した。

12月12日(金)森林総合研究所北海道支所で開催された森林講座「森の修繕屋ケヤマハンノキ」の中にその答えがあった。

ケヤマハンノキはカバノキ科ハンノキ属の樹で、明るい森林のギャップ、伐採跡地、崩壊地などにいち早く生えてくるパイオニアプランツであり、成長は早いですが寿命は40年ほどと短く、その後にはケヤマハンノキは育たず(母樹林の日陰で稚樹が育たない)、若干日陰にも耐えるミズナラ、イタヤ等の林に世代交代していく。

ケヤマハンノキの根には根粒菌が共生しているため、根粒菌がアンモニア態(NH_4^+)・硝酸態(NO_3^-)として大気中の窒素を固定しケヤマハンノキに与え、ケヤマハンノキから栄養分を受けている。そのため、ケヤマハンノキは貧栄養の荒廃地でも成長が良いのである。

その上、落葉樹は、一般的に紅葉する前に葉中の窒素分を幹の方に回収して翌年の成長に備えている。例えば、ミズナラでは葉からの窒素回収率は80%であるが、ケヤマハンノキは50%以下と少なく、葉の中に窒素分を多く残している。そのため、秋遅くまで葉が青々とし光合成をし続けており、成長をさらに加速している。また、ケヤマハンノキは落葉中の窒素分が多く、根粒菌と相俟って土壌を肥沃にするので肥料木とも云われ、周りの樹の成長を促進している。その点、シラカバはパイオニアプランツとしてよく知られているが、根粒菌が無く肥料木とは云われぬ。

マメ科に付く根粒菌はリゾビウム菌であるが、ケヤマハンノキに付く根粒菌はフランキア菌である。非マメ科の根粒樹木は意外に多く国内でハンノキ属(全16種)、アキグミ、ヤマモモ、ドクウツギなど33種ある。これらの非マメ科根粒樹木の多くは肥料木と云われ、やせ地や砂防地の造林木あるいは混植樹として利用されている。例えば、海岸砂丘などの緑化造林にアキグミとクロマツを混植して大きな成果をあげている。

我々も支笏湖の植林地(明るい肥料けの無い火山礫地)などでケヤマハンノキとトドマツ・アカエゾマツの混植を試みたいものである。(記、和田)

■ 今月の幹事会

出席者：市山・荻田・酒井・佐野・高野・津金・西野・棟方・山中・和田

傍聴：佐坂

連絡事項

- ① 理事会(中間)が開催され、平成20年度上期の事業報告・収支報告が承認されました。計画に基づき下期の事業を展開いたします。
- ② 木の里親募金2件、有難う御座いました。
 - 滋賀県守山市・河野芳明さま。
 - 森ボラ会員・佐野礼子さま。
- ③ 新会員紹介 (12月入会)
Mike DONOHUE(ドナヒュー・マイク) さん。
森ボラとしては初の外国人なのでコメントを紹介します。

●コメント：最近アメリカから引越してきたドナヒュー・マイクです。札幌で、英語教師をやっていますが、環境のボランティアもできるだけしたいと思います。今年、アメリカにあるデューク大学院から地球環境科学の修士を取ったんですから、環境活動にすごく興味があります！ぜひ、なんでもに参加したいと思っています。私は日本語検定の2級を持っていて、日本語もOKです。もちろん、通訳でもできます。

- ④ 1月(1月19日(月)13:30)のセミナーは「ヒグマ」の話です。
講師は「北海道環境科学研究センター主任研究員：間野 勉さま」

■ おしらせ

◆ 11月28日(金)札幌市西野児童会館報告

西野児童会館で1年生から4年生までの生徒を15人集め会員の菅野さんたちによりクリスマス用のドライフラワーアレンジメント教室が開かれました。

これに協賛し杉本さんが生け花の台用に丸太輪切りプレートを提供し酒井がすこし「葉っぱの話」をしました。低学年ですから木や葉っぱを触ってもらうだけでいいと思いましたが「どうしてこの葉っぱは変な臭いがするの」とか質問攻めでした。(記、酒井)



◆ 新年会開催のおしらせ

と き：平成21年1月19日(月)17:30

と ころ：菜香楼 (さいしゃんろう=中央・北2・西13 (東向き))

電話：280-6884 幹事：津金・市山

会 費：3,000円/人

出席は作業参加申込書にて連絡下さい。

■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
12月17日(水)	例会・セミナー	31名	リンケージプラザ
12月12日(金)	忘年会	20名	カルルス温泉
12月11日(木)			
12月8日(月)	幹事会	10名	
12月2日(火)	理事会	9名	事業・決算の報告(中間)、承認
11月24日(月)	杉本邸	9名	木工
11月20日(木)	アイケンの森	8名	除伐・薪づくり

■ ひとこま

◆ 前田一步園を訪ねて(その二)

前田一步園に対してまったく無知でした。

名前はどこかで1度は聞いたことがあったなあ〜と言う程度で、10数年前主人と道東を旅し阿寒湖にも立寄り湖も周遊し、今回宿泊した阿寒荘にも泊まったにもかかわらず前田一步園がどういう経緯をたどり今に至ったか。

こんなにもすばらしい事業を継続しているなど、その辺の山だろ位ににしか思っていなかった事に対してお恥ずかしい限りです。

今、一步園で一番大変な事はエゾシカによる樹皮の被害。エゾシカは厳しい冬を生き抜くために餌となる広葉樹、特にオヒョウ・ハルニレ・ミズナラ・ハンノキ・キハダを好み、冬でも凍らない湧水地があり、安全な鳥獣保護区になっている一步園に集まってくるという。

稚樹、幼樹は食べつくされる中、今母樹を何とか守り種子を取るための対策をしている様です。対策としては樹木にネットを巻付いたりビート滓ブロックで給餌をして捕獲をするなどしている。

山全体の樹木数は400万本、これに対しネットで保護している樹木は4,000本とか、大変な作業をしなければなりません。園内をあちこち案内していただき最後の方でネットが地面にボロボロになって落ちている所に出て来ました。どうしたものかと聞いてみると、エゾシカには幾つかのグループが有りグループ中でも順位があって、強いものから餌に有り付くらしく順位の低いグループや弱い固体はお腹を減らし、生き抜くためにネットまで食しているとの事でした。(記、西野澄)

前田一步園ホームページ

〒085-0467 北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉1丁目5-2

TEL 0154-67-2207 FAX 0154-67-2350

<http://www.ipoen.or.jp/>



写真から見えるもの (HP 掲載文)

10月8日阿寒の前田一步園を見学させていただいた時このような木を何本も見ました。説明によると倒木更新は根が土に届かないと途中で枯れるそうです。この木はラッキーでした。この根は熱帯林の根張り区分で言えば凸型板根(ばんこん)で風にも強そうです。

さて時代は移って今やこの森林では鹿の被害が森林保全の大きな課題になっています。写真左手の細いドマツもかじられ、板根の向かって左足もかじられているのが見えますか。木は生産者だそうですから消費者である人間や鹿に恵みを与えているのでしようが度を越さないようにしましょう。

(注:この伐根がこんなに高い位置で切られたのは冬山造材であった事を物語っており手挽鋸のため繊維の絡んだ根の部分は切れなかったのです。)

